日本機械学会誌　平成 26 年 8 月

JSME TOKAI BRANCH NEWSLETTER

日本機械学会東海支部ニュースレター　No. 24

東海支部の皆さんへ

第 63 期支部長からのご挨拶

支部長
三重大学大学院
工学研究科　機械工学専攻
教授

野　村　　由司彦

経歴：昭和 53 年 3 月名大院博士課程前期課程修了，同年日本電信電話公社（現 NTT）入社．工博（東工大）．平成 2 年名大を経て平成 9 年より現職．平成 19～22 年度三重大学理事・副学長．

1　はじめに－支部の目的－

この度，2014 年度，第 63 期支部長を仰せつかりました．当支部は，製造業の根幹である機械産業が集積する東海地区にあって，会員数も 5000 名を超える組織ということで大きな責任を感じています．

支部規則では「当支部は，機械に関する学術技芸の進歩発展をはかり，かつ，工業の発展のために尽くすことを目的とする」と謳っています．“尽くす”と踏み込むことで，持てる力を出し切るという行動規範にもなっています．個人に言及していない点でも崇高です．関連して，支部役員は個人として務めますが，その選出は企業・大学・高専などの組織（または集団）の推薦によります．この仕組みは支部と推薦母体の協力を進める点で有効ですが，私達が当事者意識を持つという点で注意が必要です．

2　支部の今後

歴代支部長の提言を参考に，目的と会員ニーズをふまえ，支部の今後を考えます．まず，課題です．

(1) 会員数が減少している．特に企業では 30 才前後の若手の加入率がそれ以上の年代の 2/3 と低く，学生員の減少とともに将来の激減を予見させる．

(2) 事業は安定して実施されているものの，講演会への企業からの参加者が少ないなど，活性度や発展性の点で改善の余地がある．

これらに対し，技術力向上への会員の期待に応えることは基本として，以下の方向性があげられます．

(1) 研究開発の方向性の議論など，会員間のコミュニケーションの活性化，さらには産学連携での技術力の向上や研究開発の推進に貢献する．

(2) 機械工学の幅広さを生かして新技術・新産業の創生に貢献する．また，震災からの復興や安心できる社会に向け，減災・防災技術の開発など，科学技術のあるべき姿を探求する．

3　「メカなび東海」（支部 WEB サイト参照）

関西支部では，総会講演会を除く支部事業への参加が年 1500 人を超え，活況を呈しています．会員数は当支部比 1.3 倍に対して参加者数は同 3 倍になります．その根幹がメカボケーション事業であり，産学共同で熱心に取組まれています．これに学び，後述の 2 期制導入にも後押しされ，機械系学生を企業につなぐ「メカなび東海」事業を立ち上げました．

「メカなび東海」は，特色ある技術や求める人材像，およびインターンシップなどの情報を企業から提供いただくことで，学生の学びやキャリア形成を支援しようとするものです．価値ある企業情報が特定の教員や大学に閉じていることもあると思います．そのような情報が集積でき，皆で共有できれば有益です．また，中堅・中小企業との産学連携の強化など，支部活動の新展開の契機ともなり得ます．担当幹事はじめ，関係の皆様にご尽力いただいているところですが，容易なことではなく，オール東海の取組みが必要です．

4　むすび－2 期制－

第 61 期幹事会にて，役員を 2 期務めることとして申し合わせました．1 期では，役員は皆，初体験となります．引継文書は残しても経験知は引継ぎようもなく，「昨年と同じ」を拠り所に事業を進めることになりがちです．2 期であれば，1 期目で経験し，考えることで，エネルギが蓄えられ，2 期目で改善や改革が進められるとのねらいです．

幹事はじめ皆様のご支援の下，支部の発展に向け取り組む所存です．どうぞよろしくお願いします．

特別企画：採録　第 32 回 イーブニングセミナー
「自動車の安全と環境の最前線」

講演：「ＨＶ/ＰＨＶの進化と最新動向」

トヨタ自動車株式会社
ＨＶシステム制御開発部
部長

阿 部　眞 一

1　はじめに

自動車を取り巻くさまざまなパワートレーンの課題，特に CO2 排出量削減，エネルギーセキュリティ対応，および大気汚染物質の排出量削減を解決していく必要がある．ハイブリッド車はこれらの課題に対する解決策の一つとなっており，従来ガソリン車と比べて大幅な燃費向上を実現している．これらに加え，従来車と変わらないユーザビリティや信頼性の確保，および販売価格の低下に伴い，HV の販売台数は急激に増加している．

2　ハイブリッド車のエネルギーマネジメント

ハイブリッドシステムの作動原理を図１に示す．燃費の画期的向上の達成手段は，①エンジンの最適効率運転により発電された余剰電力を二次電池に充電（エネルギーの一時的貯蔵），②エンジンブレーキ走行を含む制動時のエネルギー回生，③走行中のエンジン停止（間欠運転）と二次電池からの供給パワーでのモータ走行である．ハイブリッド車の制御は，クルマを運転するドライバーの要求に応じて，これらの作動を燃費向上が最適になるように制御するシステムと言える．

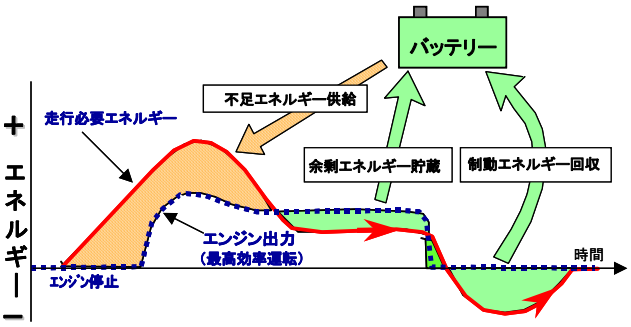


図１　ハイブリッド車のエネルギーマネジメント

3　トヨタハイブリッドシステム（ＴＨＳ）

図２にＴＨＳの構成を示す．このシステムはエンジン出力とモータ出力をプラネタリーギアで連結し動力配分を制御するものであり，駆動力はエンジン直達トルクとモータトルクの合力となる．またエンジンを停止してモータのみの走行も可能である．更に急加速時にはエンジン出力にバッテリ出力がアシストされる．

THS では，アイドル時及び，低出力域をモータ走行させることによるエンジン停止と，エンジン使用域の最適化とエンジン効率の向上（アトキンソンサイクルの採用）により，エンジンの平均効率を向上させている．これに，減速時のエネルギー回生効果が加わり，図３に示すように従来車の２倍の燃費を実現している．

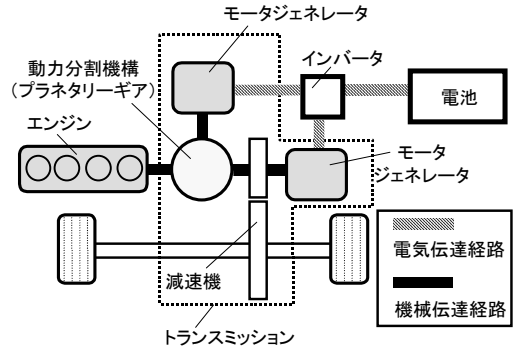


図２　初代トヨタハイブリッドシステム構成

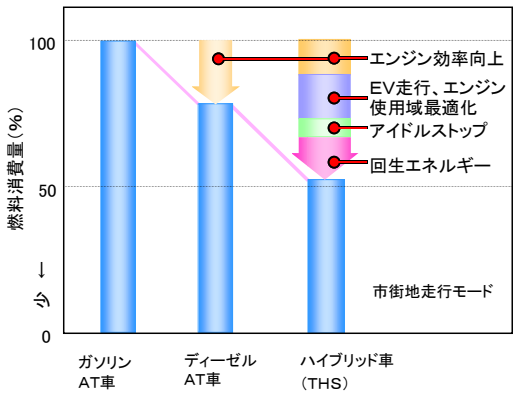


図３　ハイブリッド車の燃料消費削減内訳

4　トヨタハイブリッドシステムの進化

図４に第３世代の THS のシステム構成を示す．初代から，①モータ，発電機の電源系に昇圧回路を追加することにより高電圧化して出力の向上と電池セル数の削減．②モータリダクション機構および複合ギヤにより，モータトルクを増幅させ，モータ全長の短縮，あるいは出力トルクの増加．③クール EGR システム，電動ウォーターポンプ，廃熱回収システム等の採用によるエンジン効率の改善（図５）等により，大幅な性能向上と小型，低コスト化を両立させた．

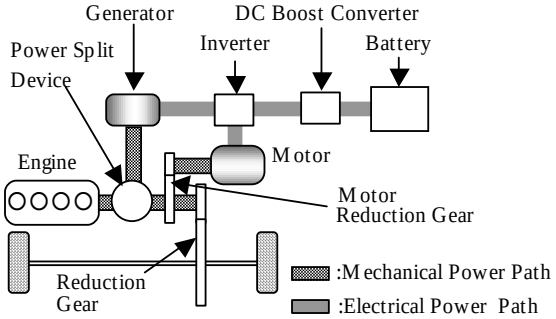


図４　第３世代プリウス　THS 構成

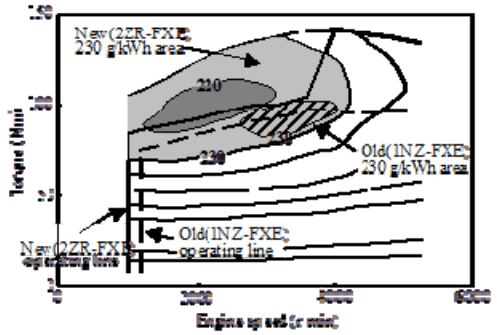


図５　エンジン効率の進化

電気系ユニットについても，図６，図７に示すように，小型化と高出力，効率化が同時に進められている．

図６　アクア搭載にむけたモータの進化

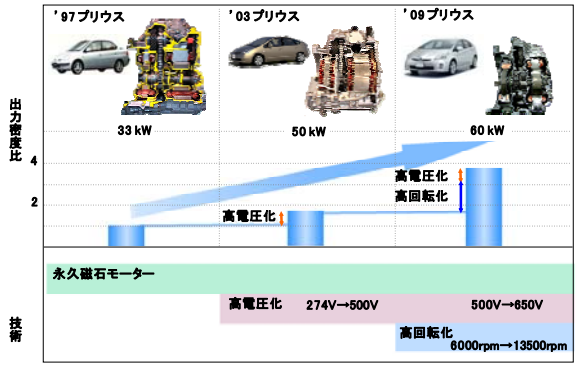


図７モータ技術の進化

５　トヨタハイブリッドシステムの販売台数推移

THS の進化に伴い，多くの車種に搭載され，２０１３年３月には販売台数は累計５００万台を超え（図８），CO2 削減に大きく貢献している．

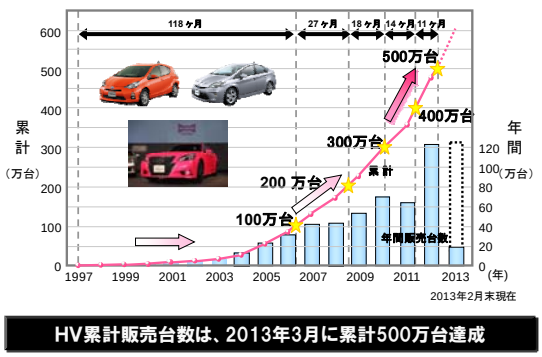


図８　累積販売台数

６　プラグインハイブリッド（PHV）

図９のように，外部からの充電機能を追加させることにより，自動車用エネルギー源の一部を電気にシフトさせ，燃費向上，ＣＯ２低減，エネルギー保証に貢献可能なシステム搭載のプラグインハイブリッド車の量産が始まった．

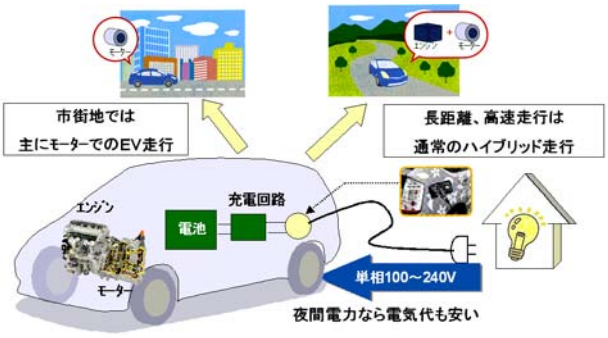


図９　プラグインハイブリッド

トヨタも EV 距離２０ｋｍ程度の実証試験を行い，すぐれた燃費性能を得られた．（図１０）．現在各社から種々のプラグインハイブリッド車が販売，あるいは計画され今後の市場の動向が注目される．（図１１）

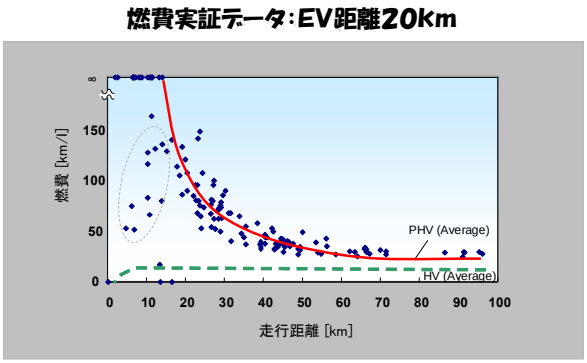


図１０燃費実証データ

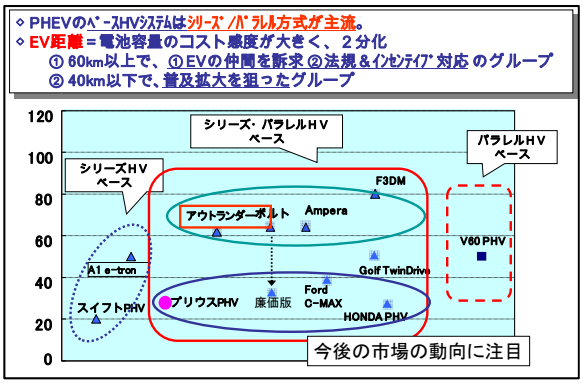
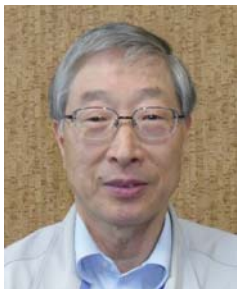


図１１　PHV の分類と EV 距離

東海支部シニア会　2013 年度活動報告



シニア会会長

斎 藤　昭 則

1　活動方針と活動内容のまとめ

2013 年度の活動方針を以下に示します.

1．交流会，見学会を企画し，シニア会員相互の交流を図る.

2．支部で企画する「機械の日」関連の小中学生対象行事に協力する.

3．2012 年度に新設された「機械工学基礎講座」は，企業への技術協力の一環ととらえ，今年度も継続された場合には昨年度と同様の協力を行う.

この活動方針に沿い，表 1 に示す行事を行いました. 以下，活動内容を記します.

2　活動内容の詳細

6 月の交流会では，2013 年度の行事計画を討議しました.「機械工学基礎講座」は 2013 年度も引続き実施する旨，支部担当の長野（前）幹事から説明があり，講師も昨年度と同様，シニア会員から 3 名，大学から 1 名の計 4 名とすることで要請がありました.「機械の日」関連支部行事（ハイテクイベント）への指導員派遣も昨年と同様に要請され対応することとしました. 見学会は最近話題の電動小型車両見学の要望が出され，電動小型車両「コムス」を製造しているトヨタ車体㈱殿にお願いすることにしました. 総会併設の講演会はロボット関係テーマへの要望が出され，これと関連しつつ従来とは変わった趣向と言うことで，田中副会長から「からくり人形」の講演と実演が提案され，この内容でお願いすることとしました.

8 月のハイテクイベントへの支援は，前年度と同様 6 名のシニア会員で，小中学生対象の「かたつむりライントレーサキット」製作の指導をしていただきました. 前年度に比べて小中学生の参加者が減少していますが，前年度までは参加費が無料だったのに対し，2013 年度はキットが高額だったため参加費 1000 円の徴収があったためと考えられます.

10 月の「機械工学基礎講座」は計画通りに実施されました. 場所は前年度と同様の名城大学名駅サテライト多目的室で行われました. 受講者は定員 40 名の募集に対して 17 名であり，前年比で 19 名の減少でしたが，2013 年度の受講者は会員外や遠方からも多く，受講後のアンケートでは大変満足との評価をされた人が多かったことから，回数を重ねていけば一定の認知を受ける講座になっていくのではないかと思われます.

見学会も計画通りトヨタ車体㈱殿で実施されました. 最初にトヨタ車体㈱ 特装福祉営業部 不破部長殿より，トヨタ車体全体の概要についての説明とDVDでの会社案内の上映がありました. 続いて小型電動車両「コムス」の開発主査である松永様より，開発の目的や経緯についての講演がありました. 小型車両とは言え，衝突時の安全などに配慮した上で低コストに抑えたことが強調されました. 講演の後は工場に移動し，「コムス」の試験をしているEVドラムテスターの見学をさせていただき，さらに構内のテストコースに移り，参加者全員で「コムス」の試乗をさせていただきました.

1 月の総会講演会では，九代玉屋庄兵衛をお招きし「からくりに見るものづくりの原点」の演題で「からくり人形」のお話し伺うと共に，「茶運び人形」や「弓引き童子」の実演をしていただきました.

3　シニア会への入会について

シニア会への入会のご案内は，毎年夏頃にその年度内で 55 歳と 60 歳になる会員に郵送しています. 支部会員であれば入会は無料ですので，皆様，是非ご入会ください.

表 1　2013 年度行事の一覧

実施日	行事名称	参加人数　( )内前年度比
6 月 22 日(土)	交流会・第 1 回運営委員会	22 名 (+1)
8 月 6 日(火)	「機械の日」関連支部事業の支援 (小中学生対象の模型作り技術指導)	指導員 6 名 (±0) 参加小中学生 67 名 (−39)
10 月 8，9 日 15 日	機械工学基礎講座「機械設計」 ㈱ムトーエンジニアリングによる CAD 講習	講師 3 名 (±0) 受講者 17 名 (−19)
10 月 11 日(木)	見学会（トヨタ車体㈱　富士松工場） 第 2 回運営委員会	20 名 (−2)
(2014 年) 1 月 25 日(土)	通常総会・講演会・懇親会	総会出席者 39 名(委任状 86) 懇親会出席者 26 名 (-2)

小・中学生のためのハイテクイベント

講演「未来の自動車 ～自動運転で広がる夢～」と工作教室 および 大学・高専実験出前工房

アイシン精機株式会社
技術企画部
主査
野崎　敏弘

名古屋工業大学大学院
機能工学専攻　機械工学教育類
教授
山田　学

本企画は，「機械の日・機械週間」キャンペーンとして位置づけ，2013 年8月6日（火）（13時00分～16時30分）に名古屋市西区則武にあるトヨタテクノミュージアム産業技術記念館大ホールにて，愛知県教育委員会，名古屋市教育委員会，中日新聞社の後援により行われた．当日は，小・中学生62名（小学生44名，中学生18名）の参加があり，同伴保護者と合わせて会場は満員盛況となる活気ある雰囲気となった．

田中 俊明 支部長の挨拶の後，トヨタ自動車株式会社　FP部主任 佐藤 潤 氏による「自動車の自動運転」と題する講演があり，映像や写真などを多用して，自動運転の仕組みや現在の研究状況などを，わかりやすく解説していただいた．

「自動車の自動運転の講演会」
（左写真：講演者　佐藤 潤 様（トヨタ自動車））

続いて，ラインを自動追従するかたつむりライントレーサーの製作を行った．工作指導には，刈谷少年発明クラブのスタッフ，東海支部シニア会スタッフや大学・高専実験出前工房出展の学生さんに協力を頂いた．子供たちは，細かい部品のネジ止めや，作業手順などに苦労しながらも指導員の指示に従い真剣に工作を行い，予定の時間内に，ほぼ全員完成した．組み立てた「かたつむりライントレーサー」を床の上で動かし，実際に，黒い線をどこまでも自動で追従し動く姿を見て，満足している様子であった．今回のキットは大変好評で，終了後，追加で購入する人もいた．「面白かった」「楽しかった」と工作も大好評であった．

かたつむりライントレーサーの製作

大学・高専実験出前工房では，大同大学，名古屋工業大学，静岡理工科大学，岐阜工業高等専門学校の４校に協力を頂いた．大同大学からは「超伝導・燃料電池の体験・学習」のブース，名古屋工業大学からは「ヘリ型飛行ロボットの操縦体験や自動操縦実演」のブース，静岡理工科大学からは「セグウエイの試乗体験や3Dプリンター実演」のブース，岐阜工業高等専門学校からは「昔ながらの技術（からくり人形や蒸気機関など）の実演・実験」のブースなど，興味深い内容を出展いただいた．多くの子供たち，保護者が終了時間まで見学し，「いろいろなことを知ることができ，すごく興味を持ってみれた」，「面白かった」等の声を多数いただいた．参加者のアンケートからも講演，工作，出前工房のいずれも高評価で，子どもたちにものづくりの楽しさを自ら体験してもらえるイベントとなった．

最後に，ご協力頂きました関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます．

大学・高専実験出前工房の様子（左上写真：静岡理工科大学，右上写真：岐阜工業高等専門学校，左下写真：大同大学，右下写真：名古屋工業大学）

株式会社ユニバンス

経営統括室
広報・秘書グループ
中 川　美智子

１．はじめに

当社は，１９３７年に工作機械メーカーの協力工場として創業し，その後，航空機部品，ミシン部品，自動車部品へと主要生産品目を変化させ，時代の流れをうまく掴み発展してまいりました．現在は自動車，産業機械，農業機械など多くの分野において，駆動系ギヤボックスをはじめとするトルクマネジメントシステム商品を中心に，開発から機械加工・組立てまで一貫生産を行う専門メーカーとして，様々なお客様のニーズにマッチした魅力ある商品を提供しております．

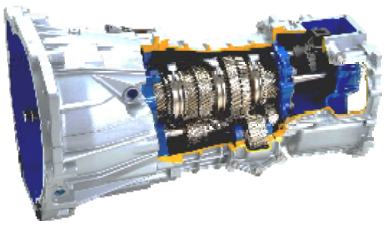
２．製品紹介

自動車分野

主な商品は，マニュアルトランミッション，トランスファー，ステアリングギヤボックス，中間ギヤボックス，ディスクブレーキなどのユニット製品と，マニュアルトランスミッション用，オートマチックトランスミッション用，無段変速機用の操作系，車軸系部品です．

マニュアルトランミッションは，高トルク・静粛性への対応を，歯形の最適設計と歯研・シェービングなどの当社技術を活用することで実現し，また変速機構のチューニングによりベストインクラスのシフトフィーリングを達成しています．

電動車両用のギヤボックスでは，より静粛なギヤ，パーキング装置も装備したギヤボックスの提供が可能となっています．



マニュアルトランスミッション

４WD車用駆動力配分装置として，ＦＦ及びＦＲベース車両用それぞれに提供できるトランスファー，プランジャーポンプ式のカップリング及びカム式ＬＳＤを使用したセンターデフ装置を揃えています．

ＦＦベース車両用には，軽量・コンパクト・低フリクション化されたパワートランスファーユニットを提供します．

パワートランスファーユニット

ＦＲベース車両用には，ＳＵＶで採用されている高い走破性と操安性を兼ね揃えたフルタイムトランスファーと，ピックアップトラックで採用されている軽量・コンパクト・低フリクションを特徴とするパートタイムトランスファーがあります．

パートタイムトランスファー

農業機械分野

主な商品は，大型トラクターのパワーシフトトランスミションです．この商品は，４６０ｋｗのエンジンに対応しており，前進１６速，後退２速を湿式多板クラッチで変速するという，少ないギヤで多くの変速段数を実現したトランスミッションです．

農業トラクター用トランスミッション

産業機械分野

主な商品は，コンクリートミキサー，無限軌道輪，キャビン旋回用の大減速比を持つ遊星減速機や，フォークリフト用のマニュアルトランスミション，オートマチックトランスミション，バッテリーフォークリフト用のギヤボックスです.

３．ものづくり技術

自社開発ユニットを支える，塑性加工技術を紹介します.

冷鍛インターナルギヤ

ギヤシェーパー加工に代わり，内歯ヘリカルギヤの冷間鍛造による成形を実現．２００４年から３００，０００個／年の量産実績があり，生産ラインでは自社開発の，プレスと旋盤の複合加工機が稼動.
日本塑性加工学会より技術開発賞を頂きました（2005.5）.

冷鍛ピニオンギヤ

技術確立・蓄えていた外歯ヘリカルギヤの冷間鍛造成形技術を採用し，２０１０年から量産を開始しております．この生産ラインでも低コスト，省スペースなどを狙い，小型油圧サーボプレス機（自社開発）が稼動しています.

冷鍛中空シャフト

軽量化が求められるシャフト部品の中空化を実現.
安価な中実材から冷間鍛造にて成形した中空シャフトは２０１１年から量産が開始され，ガンドリル加工などによる穴の切削中空シャフトと比較してさらに２０%の軽量化を実現しました.

冷鍛中空シャフト

機械加工技術では，切削加工・熱処理・組立ての基盤技術をベースに効率的な生産ラインを構築しております.

切削加工では，旋削・穴あけ・歯切り加工など，様々な加工技術を組合せ，省人化を図るためラインの自動化を進めております．また，大型設備を使用するバッチ式の生産に変えて，コンパクトな塑性加工機・高周波焼入れ機などを切削加工ラインにインラインするコンパクトな一貫ライン化も進めております.

熱処理では浸炭焼入れ，浸炭窒化，高濃度浸炭焼入れ，軟窒化処理，高周波焼入れなど，各種の表面処理に対応しています.

組立てでは，変種変量に対応するため，社内工機部門で設計・製作した設備を投入しております．また，最終検査でも，社内工機部門製のファイナルテスターを投入し，全数検査で，お客様に満足していただける性能を保証しております.

４．おわりに

私たち従業員一同は，「常に今よりも高きものに」という創業の精神のもと，自社技術の更なる革新と，新たな技術を研究開発することにより，商品・ものづくり競争力をより強いものにし，お客様のベストパートナーを目指すとともに，世界の人びとの幸せづくりに貢献していきたいと考えております.

今後とも，皆さまの一層のご指導とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます.

東海支部賞　贈賞報告と公募のお知らせ

第 62 期選考委員会委員長
三重大学大学院
工学研究科 機械工学専攻
教授

野 村　由司彦

1　はじめに

日本機械学会東海支部賞は，日本機械学会創立100周年を記念し，1997年に「東海支部地区における学術・技術の振興，特に産官学の共同研究や地域に密着した技術・研究活動を奨励する目的」で設立されました．機械工学と機械工業の発展に寄与した顕著な功績または業績を表彰するもので，今回が17回目になります．

東海支部賞規程に従い，日本機械学会誌 8月号「支部だより」および東海支部ホームページにより，功績賞，貢献賞，研究賞，奨励賞，技術賞，発明賞，プロジェクト賞，アントレプレナー賞を公募しました．また，支部幹事，商議員の皆様にも推薦を依頼しました．その結果，会員の皆様からの積極的な推薦，応募のおかげで，枠（５件）を超える７件の応募をいただきました．その内訳は，功績賞１件，研究賞１件，奨励賞１件，技術賞３件，プロジェクト賞１件です．なお，枠ですが，各賞の件数に対してではなく，総数として定められています．

支部賞の選考は，副支部長を選考委員長とし，支部会員の中から，専門領域，および産学のバランスを考えて，６名の方々に選考委員を委嘱しました．

選考委員会では，「支部賞申請／推薦書」に記載の「業績内容の記述に関する留意点」に基づいて評価基準を定めるなど，公正を期しました．また，実質の如何は問わず，外形的にも関係のある審査委員の評価を反映させないなど，公平性にも配慮して，「支部賞申請／推薦書」の「業績の内容」を審査しました．１次審査では，評価基準に基づいて各委員が個別に評価を行いました．２次審査では，審査委員が一同に会して協議しました．応募いただいた７件はいずれも高く評価されましたが，枠の制約から５件を授賞候補として選考しました．席上，各委員による1次審査の評価点，疑問，特筆事項などについて議論を尽くし理解を深めた上で決定を下しました．授賞候補は，その後，支部長に上申し，支部幹事会にて授賞を決定しました．

表彰式は，2014年 3 月18 日，大同大学で開催された第63期支部総会の中で実施され，田中俊明第62期支部長より全員に賞状と盾が贈呈されました．また，表彰式の後で実施された懇親会には，受賞者の方々にも参加いただき，支部会員との交流を深めました．受賞者各位のご業績とご努力に深く敬意を表すとともに，ご応募，ご推薦いただいた方々，ならびに選考委員の方々に心から御礼申しあげます．

今後，ますます多くのご応募をいただき，東海支部賞の評価が更に高まっていくことを願っています．

■功績賞（１件）

学術，技術，学会活動，国際交流，および教育などにおける業績を通じて，機械
工学と機械工業の発展に寄与した個人に授与．

- 「高クヌッセン数流れ」の提唱と実験的研究
  新美智秀（名古屋大学）

■研究賞（１件）

一連の研究業績を通じて，機械工学と機械工業の発展に寄与した個人，もしくは研究グループに授与．

- ファインセラミックスの接触損傷に起因する機械的特性変化の評価技術開発と工業標準化
  兼松渉（産業技術総合研究所）

■奨励賞（１件）

独創性と発展性に富む論文，または技術を通じて，機械工学および機械工業の発展に貢献が期待できる若い研究者，技術者個人に授与．

- 微生物を融合したマイクロシステムの開発
  永井萌土（豊橋技術科学大学）

■技術賞（１件）

機械工学および機械工業，とりわけ地場産業における独創的な技術の開発，あるいは研究に顕著な業績を挙げた個人，もしくは開発研究グループに授与．

- 医療用刃物及びカミソリの刃先鋭利化，高硬度化技術の開発
  山田克明，玉置司（カイインダストリーズ(株)）

■プロジェクト賞（１件）

産学協同研究の結果，製品化された技術に貢献した研究グループに授与．

- 自動販売機の環境適合と省エネルギー技術
  丸山直樹（三重大学），北出雄二郎（富士電機(株)）

<<2014年度度東海支部賞募集>>

今年度も東海支部賞を募集します．募集要領は，日本機械学会誌 8月号に掲載予定の「支部だより」，または，支部のホームページをご覧ください．自薦，他薦を問わず，東海地区の研究者・技術者・企業の方々から，多数の応募をいただきますよう，お願いします．

年間活動報告　第 62 期（2013 年度）

開　催　日	行　事　内　容	
2013年 3月		
18日(月)～19日(火)	第62期総会・講演会	会場：三重大学工学部
18日(月)	総会	会場：三重大学　講堂小ホール　参加者： 46 名(委任状 68 名)
18日(月)～19日(火)	学術講演	会場：三重大学工学部　講演数： 226 件　参加者： 375 名
18日(月)	特別講演	「船舶におけるCO_2削減対策」 講師：ジャパンマリンユナイテッド株式会社 技術研究所副所長　松本　光一郎
18日(月)	懇親会	会場：三重大学　講堂小ホール　参加者： 65 名 会場：三重大学　講堂ホワイエ　参加者： 39 名
17日(日)	第44回学生員卒業研究発表講演会	会場：三重大学工学部　講演数： 103 件　参加者： 188 名
5月 24日(金)	第151回見学会	「東芝キヤリア富士事業所　技術講演&工場見学」　講演 1 件 会場：東芝キヤリア富士事業所　参加者： 36 名
7月　9日(火)	第121回講習会	「科学英語の書き方とプレゼンテーション」　講演 3 件 会場：名古屋大学シンポジオンホール　参加者： 87 名
8月　6日(火)	小・中学生のためのハイテクイベント	「未来に輝く自動車の自動運転」 会場：産業技術記念館　参加者： 62 名
10月　8日(木), 9日(金),15日(火)	第2回機械工学基礎講座	「機械設計」　6 講座 会場：名城大学　名駅サテライト　多目的室　参加者： 17 名
10月 22日(火)	第122回講習会	「科学英語によるプレゼンテーションの実践」　講演 3 件 会場：名古屋大学シンポジオンホール　参加者： 70 名
11月　8日(金)	第2回講演会	「日本における宇宙開発の将来展望」　講演 2 件 会場：名城大学　名駅サテライト　多目的室　参加者： 39 名
11月 22日(金)	第32回イーブニングセミナー	「自動車の安全と環境の最前線」 会場：名古屋大学　理学南館理学セミナー室　参加者： 56 名
11月 29日(金)	第152回見学会	「『知の拠点』あいち産業科学技術総合センター　技術講演&見学会」 会場：「知の拠点」あいち産業科学技術総合センター　参加者： 23 名
1月 22日(水)	第123回講習会	「数値シミュレーションの基礎と応用　～最適化の基礎と応用～」 会場：名城大学　名駅サテライト　多目的室　参加者： 38 名

その他，共催6件，協賛34件，後援1件

年間活動計画　第 63 期　（2014 年度）

開　催　日	行　事　内　容	
2014年 3月		
18日(火)～19日(水)	第63期総会・講演会	会場：大同大学（滝春校舎）
18日(火)	総会	会場：大同大学講演会場の上階(4F)講義室 参加者：27名(委任状65名)
18日(火)～19日(水)	学術講演	
18日(火)	特別講演	会場：大同大学（滝春校舎）　講演数： 176 件　参加者： 335 名 「活発化している東海地域の航空宇宙産業支援の動きとその将来展望～航空宇宙産業クラスターの形成に向けて～」 講師：中部経済産業局　参事官（航空宇宙担当）中川　浩之 会場：大同大学講演会場の上階(4F)講義室　参加者： 62 名
18日(火)	特別企画ワークショップ	会場：大同大学　B0202講義室
18日(火)	懇親会	会場：大同大学　A棟14Fラウンジ　参加者： 34 名
18日(火)～19日(水)	企業展示	会場：大同大学　B棟1Fホール　出展数： 7 件
17日(月)	第45回学生員卒業研究発表講演会	会場：大同大学（滝春校舎）　講演数： 153 件　参加者： 330 名
5月 24日(金)	第153回見学会	「デンソー西尾製作所　技術講演&工場見学」　講演 1 件 会場：デンソー西尾製作所　参加者： 47 名
7月　8日(火)	第124回講習会	「科学英語の書き方とプレゼンテーション」　講演 3 件 会場：名古屋大学シンポジオンホール　参加者： 95 名
8月　5日(火)	小・中学生のためのハイテクイベント	「地球にやさしい風力発電のしくみ」 会場：産業技術記念館　参加者： 63 名
10月 14日(火), 15日(水)	第3回機械工学基礎講座	「機械設計」　4 講座 会場：名城大学　名駅サテライト　多目的室　参加者：　名
10月 28日(火)	第125回講習会	「科学英語によるプレゼンテーションの実践」　講演 3 件 会場：名古屋大学シンポジオンホール　参加者：　名
11月 14日(金)	第3回講演会	「ヒトにやさしいキカイのはなし」　講演 2 件 会場：名古屋工業大学　工学部 23号館 2311教室　参加者：　名
11月 26日(水)	第154回見学会	「名古屋大学　ナショナルコンポジットセンター　見学会」 会場：名古屋大学ナショナルコンポジットセンター　参加者：　名
12月　5日(金)	第33回イーブニングセミナー	「先進ものづくりを支える加工技術と事業化のキーポイント」 会場：名古屋大学　ベンチャービジネスラボラトリー　参加者：　名
1月　日(　)	第126回講習会	

第 63 期総会・講演会

実行委員長
大同大学
工学部 機械工学科
教授

松 浦　章 裕

2014 年 3 月 18 日～19 日
会場：大同大学滝春校舎
第 63 期総会・講演会の実施報告

日本機械学会東海支部第 63 期総会・講演会が 2014 年 3 月 18 日，19 日に大同大学を会場として開催されました．10 件のオーガナイズドセッションが設定され，一般講演と併せて 179 件(内 1 件は講演中止)の講演発表が行われました．また，今回は南海トラフ大地震に備える特別企画ワークショップ「東南海地震に備えて機械工学はなにができるか」を開催し，福和伸夫教授(名古屋大学減災連携研究センター長)と正木和明教授(愛知工業大学工学部)の招待講演が行われました．さらに，６２期に引続き企業交流の一環として７件の企業展示を併催致しました．講演会の参加者数は事前受付 134 名，当日受付 194 名でした．3 月 18 日の特別講演には，中部経済産業局地域経済部次世代産業課航空宇宙室長中川浩之様を講師としてお招きし，「活発化している東海地域の航空宇宙産業支援の動きとその将来展望～航空宇宙産業クラスターの形成に向けて～」と題してご講演を戴きました．懇親会は大同大学の 14 階にありますラウンジで開催され，35 名の方が参加されました．本講演会にご参加いただきました皆様方に心から御礼申し上げます．
なお，来年 3 月の次期総会・講演会は中部大学で開催されます．

特別講演講師　中川 浩之 様
(中部経済産業局 参事官)

予算・決算（単位：円）

科　目	第 63 期予算額	第62期決算額
Ⅰ．一般正味財産増減の部		
(1) 経常収益		
①．支部事業収入	**4,760,000**	**3,231,860**
総会付帯行事収入	150,000	139,000
総会・講演会収入	1,300,000	1,330,000
講習会収入	1,900,000	1,510,740
講演会収入	150,000	94,500
見学会収入	80,000	12,000
イーブニングセミナー収入	80,000	79,620
学生対象事業費収入	100,000	66,000
メカなび東海収入	1,000,000	0
②．雑収入	**13,000**	**30,571**
利子収入	8,000	8,571
その他雑収入	5,000	22,000
③．交付金収入	**8,750,000**	**9,051,000**
交付金収入	7,297,000	7,236,000
学生会交付金収入	922,000	905,000
メカライフの世界展	200,000	300,000
機械工学振興事業資金助成	331,000	610,000
④．繰入額等	**0**	**1,500,000**
各種積立金等繰戻し	0	1,500,000
経常収益合計	**13,523,000**	**13,813,431**
(2) 経常費用		
①．事業費	**7,192,000**	**6,725,919**
総会付帯行事費	160,000	183,100
総会・講演会費	1,300,000	1,269,957
講習会費	1,300,000	1,159,475
講演会費	100,000	78,122
見学会費	100,000	57,100
イーブニングセミナー費	100,000	85,400
学生対象事業費	1,300,000	1,188,866
表彰費　(支部賞等)	150,000	84,105
ニュース発行費	10,000	0
メカライフの世界展費	200,000	300,000
学生会補助	1,272,000	1,255,000
シニア会等委員会費	150,000	150,000
機械の日記念事業費	30,000	14,374
共催・協賛費	20,000	0
メカなび東海費	1,000,000	900,420
②．管理費	**5,500,000**	**4,965,923**
人件費	2,700,000	2,620,464
交通･通信費	100,000	97,134
印刷・消耗品費	700,000	601,576
総会費	100,000	78,060
幹事会費	800,000	683,495
商議員会費	200,000	129,910
学生会議費	200,000	98,300
備品・什器費	200,000	152,440
サーバー関係費	100,000	262,185
雑費	400,000	242,359
③．繰出額	**0**	**0**
積立金繰入	0	0
経常費用合計	**12,692,000**	**11,691,842**
当期経常増減額	**831,000**	**2,121,589**
一般正味財産期首残高	7,632,838	5,511,249
一般正味財産期末残高	8,463,838	7,632,838
Ⅱ．指定正味財産増減の部		
①．当期指定正味財産増減額	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0
指定正味財産期首残高	0	0
指定正味財産期末残高	0	0
Ⅲ．正味財産期末残高	**8,463,838**	**7,632,838**

第 63 期東海支部役員

＊幹事

氏　名	所　属	役職と担当行事名
野村 由司彦	三重大学	支部長総括 支部協議会委員
大久保陽一郎	㈱豊田中央研究所	副支部長 支部賞選考委員長 表彰担当幹事
田中 俊明	㈱コンポン研究所	会計監査
新井 史人*	名古屋大学	庶務全般 事務局管理 第33回イーブニングセミナー
浜本 徹*	トヨタ自動車㈱	会計担当 第 3 回機械工学基礎講座
伊藤 天*	㈱豊田自動織機	会員担当 会員部会委員 小・中学生のための ハイテクイベント
林 伸和*	豊田工業高等専門学校	学生会担当 学生員委員会委員
山本 秀彦*	岐阜大学	表彰担当幹事 第 3 回機械工学基礎講座
足立 直人*	三菱重工業㈱	第 154 回見学会
浮田 哲嗣*	三菱自動車工業㈱	第 3 回講演会
大下 守人*	アイシン精機㈱	シニア会担当
北村 憲彦*	名古屋工業大学	第 3 回講演会
久保 貴*	名城大学	小・中学生のための ハイテクイベント
小塚 晃透*	産業技術総合研究所	第 124 回講習会 第 125 回講習会 第 127 回講習会
末長 修*	静岡大学	ニュースレター No.24
都竹 広幸*	ヤマハ発動機㈱	第 155 回見学会
中溝 真一*	㈱デンソー	第 153 回見学会 第 126 回講習会
中村 泰也*	アイシン・エイ・ダブリュ㈱	第 124 回講習会 第 125 回講習会 第 127 回講習会
藤村 俊夫*	愛知工業大学	メカなび東海
本間 直樹*	トヨタ車体㈱	機械の日・機械週間
水谷 秀行*	中部大学	第 64 期総会・講演会
柳田 秀記*	豊橋技術科学大学	第 126 回講習会
原 進*	名古屋大学	運営委員

〔編集後記〕

東海支部ニュースレターNo.24 を無事お届けできることを大変うれしく思っております.

編集幹事といたしましては，本ニュースレターを介して，より多くの方々に「東海支部の活動」を知っていただき，さまざまな諸行事に対して，皆様の積極的な参加への一助になれば幸いと思っております.

そのためにも，本ニュースレターが，多くの会員の目に留まるような手立てを講じることも必要かという思いもあります.

最後になりましたが，ご多忙中，ご執筆いただきました方々に心よりお礼を申し上げます．（O.S.）

日本機械学会東海支部
〒464-8603　名古屋市千種区不老町
名古屋大学　工学部　機械工学教室内
TEL/FAX　052-789-4494
E-mail：tokaim@nuem.nagoya-u.ac.jp
URL：http://www.jsme.or.jp/tk/

● 発行責任者　支部長　野 村　由司彦
● 編　　集　幹　事　末 長　　修

ニュースレターへの会員の方々のご投稿を歓迎いたします.

また，学会へのご参加，ご寄稿，その他のお申し込み，お問い合わせは上記へお願いいたします.

JSME
TOKAI STUDENT BRANCH
NEWSLETTER
日本機械学会東海学生会ニュースレター　No. 20

東海学生会会員の皆様へ

豊田高専機械工学科
林 伸和

本年度の東海学生会幹事を担当いたします豊田高専の林伸和と申します．一年間どうぞよろしくお願い致します．

学生会は学生員の学会活動を盛んにし，学生員相互の親睦をはかることを目的としています．具体的な事業として，各分野でご活躍される講師の先生による講演会，企業や研究機関などの見学会，そして年度末には卒業研究発表講演会があります．またこのような専門の勉強だけでなく畠山杯ソフトボール大会が毎年行われています．講演会や見学会では普段皆さんが触れることのできない貴重な体験ができることと存じます．「講演会や見学会は就職してからでも参加できるからいいや」とお考えの学生員の方がいらっしゃるかもしれませんが，就職してから参加するのは時間の制約から一苦労ですし，多くの見学会では同業他社お断りです．学生という時間的，身分的ゆとりのある時期をぜひ有効にご活用いただき，将来機械技術者としてご活躍される素地にしていただければ幸いです．ほとんどの行事は参加費無料で，交通費の一部援助もあります．ぜひご検討ください．

畠山杯ソフトボール大会は伝統ある大会で，平成26年度は44回目を数えます．普段ほとんど交流のない他大学の学生と親睦が図れることと存じます．また平成24年からは，このソフトボール大会と同時開催で，研究交流会が始まりました．開催会場の都合で実施は簡単ではありませんが，開催時には奮ってご参加ください．

また，皆さんから「こんな企画をしてほしい」，「こんな講演を聞きたい」というご要望がありましたら各大学・高専の学生委員や顧問の先生を通じて，あるいは直接私までご連絡いただければ，できる限り実現できるよう努力していきたいと思います．

学生員のみなさんと学生会の構成メンバーが共に成長できるような，そんな一年にしたいと考えています．ご協力のほどよろしくお願い申し上げます．

東海学生会委員長挨拶

豊田高専専攻科
松本 智也

平成26年度の日本機械学会東海学生会委員長を務めます，豊田高専専攻科電子機械工学専攻の松本智也と申します．はじめての経験ですので，何かと至らぬ点があるかと思いますが，精一杯がんばりますので一年間よろしくお願い致します．

東海学生会は東海地方の17の大学・工業高等専門学校から構成されます．本年度の委員長校は豊田高専であり，幹事校として愛知工業大学，岐阜高専，静岡理工科大学，豊田工業大学，三重大学の方々に御協力いただくことになりました．学生会の主な活動内容として，メカライフの世界展や畠山杯争奪スポーツ大会，卒業研究発表講演会，見学会，講演会などの行事を計画しています．これらの活動を通して学生同士の交流を促進するとともに，学生会の一層の発展を目指して参ります．

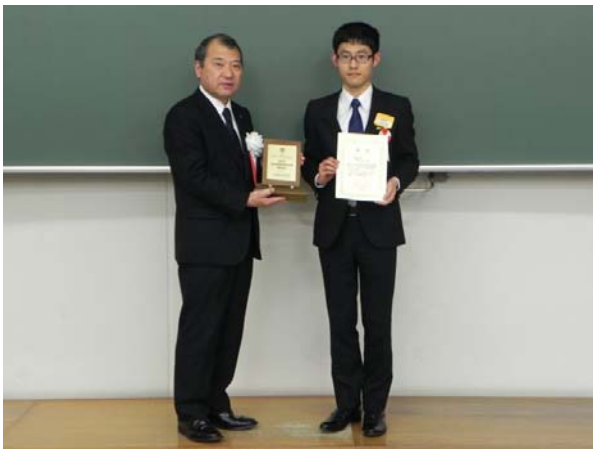
最後になりましたが，本学生会の行事運営にあたり，御指導，御協力いただきます各校の先生方，学生委員の方々に厚く御礼申し上げますとともに，今後とも御協力を賜りますようお願い申し上げます．

第 45 回学生員卒業研究発表講演会

―Best Presentation Award―

平成25年度の第45回学生員卒業研究発表講演会における Best Presentation Award の受賞者は，次の３名の方々です．

- 鳥居　蔵人　氏　（名城大学）
- 中野　宏紀　氏　（名古屋工業大学）
- 田代　和也　氏　（名古屋大学）



授賞式の様子（田中前東海支部長と鳥居氏）

名城大学　鳥居　蔵人

この度は学生員卒業研究発表講演会にて，Best Presentation Award を受賞できたことをとても光栄に思います．

この学生員卒業研究発表講演会が開催されると知った時，研究内容をより多くの人に知ってもらいたいという思いから投稿を決意しました．

講演会では研究内容を理解してもらうため，内容の構成，研究の着目点など，聴講される方々が何を知りたいのかということを意識して説明するように気を付けました．

研究では研究室で行われていた既存の研究を勉強することに多くの時間を使ったため，自分の研究を大きく進めることは出来ませんでしたが，研究の進め方や問題解決の場面で，先生をはじめ研究室の先輩方に夜遅くまで熱心にご指導を頂くと共に講演会へ向けての資料作成でも多くのアドバイスを頂き，この発表を作り上げることができました．

今後，今回の講演会に際しご指導ご鞭撻賜った内容を良き糧としてより一層研究に精進していきたいと思っています．

最後に，ご指導ご鞭撻を賜りました大道武生教授をはじめとする研究室の皆様，また日本機械学会東海学生会関係者の皆様に厚くお礼申し上げます．

名古屋工業大学　中野　宏紀

今回，このような素晴らしい賞を頂くことが出来，大変光栄に思います．

講演会，そして Best Presentation Award への参加申し込みが決定してから，受賞を目指して研究を進めると同時に，それまでの研究結果をどのように構成しなおすかということに時間を割いてきました．講演会には，私とは専門の異なる様々な研究分野の方が参加されるということでしたので，研究背景の説明を充実させるとともに，限られた時間の中で研究の要点を理解していただくため，内容の絞り込みと補足とを繰り返し行いました．また，当日の会場での発表に至るまでに，先生をはじめとして研究室の皆様に発表練習にお付き合いいただき，発表内容と態度について数々の貴重なご指摘とアドバイスを頂きました．この結果，会場での発表を，自信を持って行うことが出来ました．この場を借りて感謝申し上げます．

今回の発表ならびに研究結果はまだまだ未熟なものでありますが，研究室に配属されてからの１年間で取り組んできたことがこのような形で評価され，大変うれしく感じるとともに，大きな自信を得ることが出来ました．今後は大学院に進学し，研究により一層精進していきたいと考えております．最後に，このような貴重な機会を与えてくださった全ての皆さまに深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます．

名古屋大学　田代　和也

この度は学生員卒業研究発表講演会にて，Best Presentation Award を受賞できたことをとても光栄に思います．この講演会の参加が決定し，日々の研究や発表練習を行う中で，わかりやすいスライドの作り方や，聞き手に伝わりやすい発表の方法，またその発表を行うためにはどのように研究を進めていけばよいか，など多くのことを学ぶことができました．また，今回の講演会は初めての外部での発表でもありましたので，他大学の学生が熱心に研究に取り組む姿勢を見ることができたことも今後の研究へのモチベーションになると思います．今回の発表および研究成果は，まだまだ十分満足できるものではありませんが，努力した成果が受賞という形となって現れたことは，大きな自信となり，大変嬉しく思っています．私は卒業後，修士課程に進みますので，今後学会発表や発表予稿を作成する機会が多くあると思います．その時は今回の発表で学んだことを活かし，良い発表・結果を出せるように日々の研究に取り組んでいきたいと思います．

最後になりますが，ご指導ご鞭撻賜りました新井先生を始めとし研究室の皆様，そして主催してくださいました日本機械学会東海学生会関係者の皆様方に，深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます．

第 43 回畠山杯争奪ソフトボール大会

名古屋工業大学大学院　機能工学専攻
内藤大地　渡辺啓仁

平成 25 年 11 月 9（土）に名古屋工業大学千種グラウンドで第 43 回畠山杯争奪ソフトボール大会が開催されました．当日は，晴天にも恵まれ 7 校・80 名が参加されました．なお，グラウンド周辺に適当な建屋がなく，また鶴舞キャンパスから離れており，学生交流会を並行して開催することが困難であることから，今年度はソフトボール大会のみの実施となりました．

大会結果は，優勝・愛知工科大学，準優勝・名城大学，第 3 位・名古屋工業大学となりました．試合は，どの参加校も気迫溢れるプレーでファインプレーが連発し白熱した試合になりました．ランナーがホームに生還して点が入ったときはチーム全員で喜び合い，逆にピンチのときは選手同士で声を掛け合うだけではなく，ベンチからもアドバイスを送っている姿には，観戦していた私たちも興奮しました．試合を観戦して驚いたことは，選手の皆さんが非常にソフトボールが上手だということです．内野は強烈なゴロが飛んでもほとんどエラーすることなくアウトにし，また，外野の中継やベースカバーなどプレーも非常に良く連携が取れており，相当な練習を積んできていることが想像できました．

昼休みには，残念ながら午前中で敗退してしまった参加校から「各校の有志で昼休みの時間を使って試合がしたい」との提案があり，トーナメントの試合だけでは得られない，より深い他校間の交流ができたのではないかと思いました．

最後に，大会運営にご協力頂いた各校の顧問の先生方，審判や助っ人等の急なお願いにも快く対応して頂いた参加校の皆様に深く感謝申し上げます．また，名古屋工業大学チームの協力で前日の雨でぬかるんでいたグラウンドを整備し，開催校として皆様を迎えることができました．以上，皆様のご協力のお陰で今大会をスムーズかつ大盛況のうちに終えることができました．今後もこのような大会を通じて，東海学生会の学生間の交流がさらに深まり，東海学生会全体がより一層活性化していくことを期待しています．

東海学生見学会

岐阜工業高等専門学校 専攻科
村田 凌太郎

平成26年1月15日（水），岐阜県本巣市にある森松工業株式会社の本社工場を見学しました．森松工業株式会社は建物の屋上に設置されている貯水槽をはじめとし，さまざまな用途のタンクを作製している企業です．また，ステンレス鋼をいち早くタンク素材として使用，タンクのパネルに球の一部を組み合わせる事による強度改善など，常に新しい技術を導入し，タンク業界のパイオニアとなっています．

今回の本社工場では，主にステンレス製パネルを使用したタンクを作製しているところを見学させてもらいました．森松工業株式会社はタンクを一から作っており，ステンレス鋼が材料の板の状態からどんどん製品になっていく一連の流れを知ることができました．溶接，組み立てなどの各々の加工の工程も間近で見ることができたほか，大きな材料の加工も見ることができ，それを加工する機械はさらに大きく迫力があり，自分の学校の実習工場とは規模が違い圧倒されました．

森松工業株式会社独自の加工技術も説明してもらいました．タンクパネルの球形を作るにはプレス加工をします．プレス加工といえば，普通は金属同士で押さえつけますが，森松工業株式会社はプレスに水を使用しています．これにより，製品に傷をつけること無く球形を作ることができるそうです．この加工方法は，自分は聞いたことも見たこともないもので非常に興味深いものであり，発想も凄いな，と感心しました．

今回の森松工業株式会社の見学会は，とても有意義な時間となりました．企業の現場の見学会は，見られないものを見られとても楽しめると同時に，学生では普段は感じられない刺激を味わうことができます．このような機会が今後も設けられ，増えていくとなお良いと思いました．

求人・求職支援 WEB サイト「メカなび東海」開設

日本機械学会東海支部が求人・求職の支援をするWEBサイトを開設しました(2014.4)．従来から同様なサイトはありますが，「メカなび東海」の特徴は，対象企業・学生を「機械系，東海４県」に特定することによって，効果的に両者のマッチングにつなげていこうとするものです．

まだ開設して間がないため，登録企業は多くはありませんが，大きく育っていくことを学生会としても期待しています．（http://www.mechanavitk.jp/）

日本機械学会東海学生会　平成 26 年度事業計画・日程

開催月日	行事・企画等名	担当校	開催場所
5 月　22 日	第 199 回講演会	豊田工大	豊田工大
31 日	平成 26 年度第 1 回幹事校会・学生会員校運営委員総会および懇親会	豊田高専	安保ホール
6 月　28 日	第 1 回顧問会	豊田高専	名古屋大学
7 月　上旬	第 200 回講演会	豊橋技科大	
中旬	第 2 回幹事校会(E-mail 会議)	豊田高専	
8 月　上旬	Newsletter 発刊	豊田高専	
10 月　上旬	東海学生見学会	名古屋大学	
上旬	第 201 回講演会	岐阜高専	
上旬	第 3 回幹事校会(E-mail 会議)	豊田高専	
下旬	第 202 回講演会	鈴鹿高専	
11 月　上旬	第 44 回畠山杯争奪ソフトボール大会	名城大学	
上旬	第 2 回研究交流会	名城大学	
下旬	東海学生見学会	愛知工科大	
下旬	第 2 回顧問会	豊田高専	
12 月　上旬	第 203 回講演会	静岡理工科大	
平成 27 年 1 月　上旬	平成 26 年度第 2 回幹事校会・学生会員校運営委員総会および懇親会	豊田高専	
3 月　12 日	第 46 回卒業研究発表講演会	実行委員会	

機械工学振興事業　（メカライフの世界展）

前・後期	実施校	テーマ（開催時期は予定です）
前期 1	大同大学	燃料電池制作模擬授業　（5 月 24 日）
前期 2	愛知工業大	面白い形状記憶合金と昆虫飛翔の可視化　（7 月 28～29 日，10 月 6～7 日）
前期 3	静岡理工科大	前後二輪駆動バイクの展示・走行　（8 月上旬 ）
前期 4	三重大学	機械工学の最先端を知ろう！（8 月 8 日）
前期 5	岐阜高専	こんなところに機械工学　（8 月 30 日）
後期 1	愛知工科大	身のまわりの飛ぶものを考えよう　（10 月 12 日）
後期 2	豊田高専	実習教育の成果物の展示と有志による自作ロボットの公開・実演（10 月 12～13 日）
後期 3	豊橋技科大	ロボットの展示・操縦体験・ロボコンの世界をのぞいてみよう！（10 月 13 日）
後期 4	鈴鹿高専	楽しんで学べる創造機械工学展　（10 月）
後期 5	沼津高専	機械要素を理解し、機械の仕組みを製作体験しよう！（11 月 5～6 日 ）

東海学生会運営委員・顧問 名簿

会員校	運営委員	顧問
愛知工科大	山本拓也	石原裕二
愛知工業大	竹原一輝，二上泰輔	松井良介
岐阜高専	磯谷 武，玉置健太	山田 実
岐阜大学	島田駿弥，大矢武明	高橋周平
静岡大学	木野恭平，村岡 隆	本澤政明
静岡理工科大	鈴木隆太郎，晁 会亮	野﨑孝志
鈴鹿高専	加藤雅也，稲垣和寿	南部紘一郎
大同大学	纐纈嘉彦，大島拓海	蔦森秀夫
中部大学	高田一輝，河合貴未央	行本正雄
豊田高専	松本智也，足立和輝	林 伸和

会員校	運営委員	顧問
豊田工大	上田紘義	川西通裕
豊橋技科大	田村晃一，堀尾亮介	佐野滋則
名古屋工大	渡辺啓仁，松岡翔太	佐野明人
名古屋大学	小林吾一，下窪尚也	水野幸治
沼津高専	石田裕哉，鈴木洋輔	山中 仁
三重大学	韓 萬海，廣森勇人	鎌田泰成
名城大学	小原田和也，加藤 優	清水憲一
学生会担当幹事	林 伸和（豊田高専）	
学生会担当商議員	森脇克巳（大同大学）	
東海支部事務局	小松真奈美，丸山昌子	